シリーズ④「伝え継ぐ藤樹先生」

藤樹先生の教えを幼児教育に

藤波こども園 園長　馬場　惠美子

藤波こども園は、平成二十五年より幼稚園と保育園の機能をあわせもつ園として、新しい園舎で再スタートしました。

前身の藤波幼稚園は、青柳小学校区の地域の方や青柳仏教会の支援をえて、昭和三十五年に開設されました。

創始者の松本義懿先生は、長年藤樹先生の研究を続けてこられた教育者です。園舎は、藤樹先生の研究者の合宿所を譲り受けたもので、園名は藤樹先生の「藤」を戴きました。藤樹先生ゆかりの地で、開設当初から藤樹先生の教えを幼児教育の中心に据え、保育・教育を推進してきています。

〝いつもにこにこ　やさしいことば　みんななかよし　藤波の子〟

これは、藤樹先生の教え「五事を正す」を子どもたちにもわかるようにしたものです。教職員も一人ひとりの思いに寄り添いながら、愛敬の心で子どもたちとかかわっています。

年長児（5歳児）になると、年に何回か書院に参拝します。九月二十五日の儒式祭典の前や卒園式の前などの節目に、書院に上がらせていただきお参りします。

お参りのあとに松本孝太郎先生から孝経の一節「身体髪膚これを父母に受けたり　敢えて毀傷せざるは孝の始めなり」「己の欲せざる所は人に施すこと勿れ」の読み方と意味を教えていただきます。子どもたちは、自分の生活に照らしあわせて考え、友だちとのかかわり方について学んでいます。あらたまった雰囲気のある書院でお話を聞くことは、子どもたちにとってとてもよい体験となっています。

卒園式には、頌徳歌を歌い、教えていただいた孝経の一節を暗誦しています。

第三十一回　藤樹先生書道展開催される

「藤樹先生の御聖徳を敬慕し、書の上達を祈念して」、昨年十月二十一～二十六日まで、藤樹の里文化芸術会館で開催されました。藤樹先生献書会の主催で、「委嘱出品者」「無鑑査」「一般」には二百四十六点、また「小・中学生」の部門には実に三千三百九点の出品があったそうで、その展示の壮観さには圧倒されました。

出品課題は、開催要項に示された藤樹先生のことばの中から選ぶことになっています。例えば「孝徳」「明明徳」「白日晴天」「先致其良知」「孝在混沌乃中」「霞簇四山和氣新」「思い出は學びし本の心より　千里を通ふ誠忘るな」「廉直かならず財をうしなわず」……等々です。ちなみに今年度の高島藤樹会会長賞は、中村美幸さんが受賞されました。おめでとうございます。

毎年、このように三千数百人の方々が藤樹先生の遺訓からことばを選んで制作に没頭されていることを思うと、この催しが、藤樹先生の教えを受け継ぎ広める上で大きな役割を果たしてきたといえるでしょう。（H・M）

「藤樹像を求めて」②

日野小学校の和室には「致良知」の額が掲げられているとのことで、教頭先生にその和室に案内していただきました。

その字体は、藤樹書院等でよく目にする先生直筆の「致良知」ではなく、額には「高瀬武次郎」との署名がありました。その場では、高瀬武次郎さんについてはだれも知りませんでした。ところが、たまたま今回「良知館通信」の寄稿を山本義雄さんにお願いしたところ、その原稿の中に「高瀬武次郎先生」のことが記されていました。詳しくは最後の頁をご覧ください。

ただ、どうしてこの学校にこの額が掲げられたのかは不明ですが、いずれにしても「藤樹像」「致良知の額」の存在から、日野小学校やこの地域が藤樹先生を敬ってこられたことを窺えます。

日野小学校の和室に掲げられた「致良知」の額

次に、同じ日野町内の西大路小学校に足を伸ばしました。

（次号に続きます。三田村治夫）